

平成 29 年 12 月 12 日

各 位

会 社 名 株式会社一家ダイニングプロジェクト
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 武 長 太 郎
(コード番号：9266 東証マザーズ)

問 合 せ 先 取 締 役 高 橋 広 宜
管 理 部 長

(TEL. 047-302-5115)

東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、平成 29 年 12 月 12 日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。今後ともなお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、平成 30 年 3 月期（平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで）における当社の業績予想は、次のとおりであり、また最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

(単位:百万円、%)

項 目	平成 30 年 3 月期 (予想)			平成 30 年 3 月期 第 2 四半期累計期間 (実績)		平成 29 年 3 月期 (実績)	
	対売上 高比率	対前期 増減率		対売上 高比率		対売上 高比率	
売 上 高	6,144	—	13.4	2,923	—	5,418	—
営 業 利 益	251	4.1	59.9	47	1.6	157	2.9
経 常 利 益	242	3.9	57.1	46	1.6	154	2.8
当期(四半期)純利益	169	2.8	122.4	28	1.0	76	1.4
1 株 当 たり 当 期 (四 半 期) 純 利 益	122.87			21.57		59.49	
1 株 当 たり 配 当 金	—			—		—	

- (注) 1. 平成 29 年 3 月期 (実績) 及び平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計期間 (実績) の 1 株当たり当期 (四半期) 純利益は期中平均発行済株式数により算出しております。
2. 平成 30 年 3 月期 (予想) の 1 株当たり当期純利益は、公募株式数 (株) を含めた予定期中平均発行済株式数により算出しております。
3. 平成 29 年 10 月 12 日付で普通株式 1 株につき 20 株の割合で株式分割を行っておりますが、平成 29 年 3 月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1 株当たり当期 (四半期) 純利益を算出しております。

【平成30年3月期業績予想の前提条件】

1. 当社全体の見通し

当社は、会社設立以来、「お客様、関わる全ての人と喜びと感動を分かち合う」という理念のもと、平成29年3月末現在、飲食事業部は主力業態である「こだわりもん一家」業態11店舗、「屋台屋 博多劇場」業態23店舗のほか、カジュアルレストランの

「Trattoria&WineBar TANGO」、本格江戸前鮎の「鮎 あらた」の4業態36店舗を首都圏中心に展開しております。平成24年8月にはブライダル施設「The Place of Tokyo」を東京都港区にオープンし、飲食業で培った「おもてなし」の心を武器にブライダル事業へ参入しております。

このような状況のもと、平成30年3月期におきましては、「こだわりもん一家」業態3店舗、「屋台屋 博多劇場」業態9店舗の出店を計画しており、期初計画では、売上高は6,144百万円（前期比113.4%）、営業利益は251百万円（前期比159.9%）、経常利益は242百万円（前期比157.1%）、当期純利益は169百万円（前期比222.4%）と見込んでおります。

2. 業績予想の前提条件

（1）売上高

【飲食事業部】

既存店については、店舗ごとに曜日別の前期実績平均売上と今期の曜日別日数から想定月間売上予算を算出後、前期下半期の売上実績、店舗ごとの目標客単価を参考に調整をして売上高を策定しております。前期下半期の客単価と客数の実績推移より、「屋台屋 博多劇場」業態は客単価の減少を見込み前期対比97.8%、「こだわりもん一家」業態は客数の減少を見込み前期対比98.1%の売上を見込んでおります。

新店については、12店舗の新規出店を予定しております。今期すでに出店情報が確定している店舗については、立地・席数等を考慮して予測売上を策定しております。その他の店舗については、標準的な店舗規模で過去の売上実績から月間売上高を「屋台屋 博多劇場」業態は6.5百万円、「こだわりもん一家」業態は7百万円として見込んでおります。

以上の結果、飲食事業部における売上高は、3,922百万円（前年比127.3%）を見込んでおります。

【ブライダル事業部】

婚礼については、過去3期の来館数・成約率・成約数・組単価・組人数・稼働率の実績を元に、前期下半期の実績推移を勘案して予算を策定しております。前期はTV放映効果により来館数と成約数がアップし増収となりましたが、今期はTV放映効果がないことを考慮して施工数を前期比94.3%と見込み、少人数婚礼の増加を踏まえて組単価を前期比99.6%と見込んだ結果、2,222百万円（前期比95.1%）を予定しております。

(2) 売上原価

飲食事業部については、仕入価格が安定していることやロス管理を徹底していることから、業態ごとのメニュー構成と過去の実績より業態ごとに売上原価を見込んでおります。原価率が「こだわりもん一家」業態より1%ほど低い「屋台屋 博多劇場」業態の出店で売上構成比割合が増加したことと、全店一括契約によるビール等の仕入値引の増加により、1,115百万円(前期比121.5%)を見込んでおります。ブライダル事業は、飲食材以外の原価割引率アップの交渉に成功したことにより906百万円(前期比94.3%)を見込んでおります。

以上により、全社計で2,022百万円(前期比107.6%)を見込んでおります。

(3) 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費については、各事業部及び各業態の過去の推移を勘案したうえで売上の変動に応じて調整をした予算を組んでおります。主な費用の内訳に関しては以下の通りとなります。

人件費につきましては、本部社員人件費は、前期実績からの各人員の昇給、人員増を勘案し策定しております。

飲食事業部・ブライダル事業部ともに、過去実績をもとに、各店舗及び拠点ごとの人員配置(社員数、必要運営人員数)、売上高計画に対しての人件費額を勘案し策定しております。採用費につきましては、人財育成部が人員計画に基づき算出してしております。水道光熱費につきましては、事業部・店舗ごとに過去の実績をもとに、季節変動などの傾向を勘案し策定しております。

その他、新規出店に伴う固定費の増大により、平成30年3月期の販売費及び一般管理費は、3,871百万円(前期比114.5%)を見込んでおります。

(4) 営業外損益

営業外収益の内訳は、受取手数料及び受取配当金、営業外費用の内訳は、支払利息と支払保証費であります。過去の実績を勘案しつつ当期発生すると見込まれるものを計上しております。

以上により、営業外収益は8百万円、営業外費用は17百万円を見込んでおります。

(5) 特別損益

平成30年3月期においては、特別損益は見込んでおりません。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績につき

ましては、様々な要因によって異なる場合があります。

以上

通期	6,144	13.4	295	87.7	242	57.5	169	123.1	127.01
----	-------	------	-----	------	-----	------	-----	-------	--------

- (注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無
2. 当社は、平成29年10月12日付で普通株式1株につき20株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、平成30年3月期の期首より株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。
3. 平成30年3月期（予想）の1株当たり当期純利益は、公募株式数（株）を含めた予定期中平均発行株式数により算出しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

30年3月期2Q	1,338,000株	29年3月期	1,318,000株
----------	------------	--------	------------

② 期末自己株式数

30年3月期2Q	一株	29年3月期	一株
----------	----	--------	----

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

30年3月期2Q	1,331,442株	29年3月期2Q	一株
----------	------------	----------	----

(注) 当社は、平成29年10月12日付で普通株式1株につき20株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、平成29年3月期の期首より株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数 (普通株式) を算定しております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記事項	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用情勢や企業収益の改善を背景に、緩やかな回復基調にあるものの、米国政権の動向に対する懸念や地政学的リスクの高まりなど、先行き不透明な状況が続いております。

外食業界におきましては、業界全体として緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、人材不足の深刻化による人件費・採用費の上昇、原材料の高騰や企業間競争の激化など、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社は『あらゆる人の幸せに関わる日本一のおもてなし集団』というグループミッションのもと、より多くのお客様におもてなしによって感動を提供する為に、事業の拡大、優秀な人材の確保及びサービス力向上に注力して参りました。

飲食事業においては、都内を中心に主力業態の新規出店、サービス力向上及び店舗オペレーションの改善、自社アプリ会員の獲得によるリピーター客数の増加に継続して注力してまいりました。新規出店に関しては、都心部への出店（屋台屋博多劇場六本木店、こだわりもん一家渋谷店等）の他、株式会社ダイヤモンドダイニングに開発支援を受け「ガレージダイニングプロジェクト」（駐車場などの遊休地にアメリカから取り寄せたスチールキャビンを設置する出店形式）として出店した屋台屋博多劇場大井町店、埼玉県内2号店目となる屋台屋博多劇場本川越店を含む直営店8店舗（こだわりもん一家2店舗、屋台屋博多劇場6店舗）を出店し、直営店が合計で44店舗となりました。また、継続的な会員獲得により、リピーター客数も好調に推移しております。

ブライダル事業部においては、婚礼の主力広告媒体との連携強化による来館数・成約率の向上、サービス力向上及びコスト削減、宴席の新規案件の取り込み及びリピート客数の増加、レストランのサービス力、商品力の向上及び新規客数の増加に継続して注力してまいりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は2,923,969千円、営業利益は47,540千円、経常利益は46,359千円、四半期純利益は28,717千円となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 飲食事業

売上高は、1,761,632千円、セグメント利益（営業利益）は10,766千円となりました。

② ブライダル事業

売上高は、1,162,336千円、セグメント利益（営業利益）は36,773千円となりました。

なお、当社は前第2四半期累計期間においては、四半期財務諸表を作成していないため、前年同期比は記載しておりません。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

（総資産）

当第2四半期会計期間末における総資産は、その他の流動資産が65,095千円減少したものの、現金及び預金が41,345千円増加、新規店舗のオープンに伴い有形固定資産合計が208,460千円増加したことなどにより、3,181,744千円（前事業年度比224,295千円の増加）となりました。

（負債）

当第2四半期会計期間末における負債は、未払法人税等が13,539千円減少したものの、1年内返済予定の長期借入金が30,428千円、長期借入金が100,545千円及び資産除去債務が23,960千円増加したことなどにより、2,635,239千円（前事業年度比152,136千円の増加）となりました。

（純資産）

当第2四半期会計期間末における純資産は、増資により資本金及び資本剰余金がそれぞれ19,000千円増加したこと、四半期純利益の計上に伴い利益剰余金が28,717千円増加したことなどにより546,504千円（前事業年度比72,158千円の増加）となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物の期末残高は909,457千円となりました。当第2四半期累計期間におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは100,372千円の収入となりました。これは、税引前四半期純利益46,359千円、減価償却費80,798千円の計上、仕入債務の増加9,025千円及びその他の負債の増加26,791千円などによる資金の増加が、その他の資産の増加22,076千円及び法人税等の支払39,545千円などによる資金の減少を上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは221,094千円の支出となりました。これは、有形固定資産の取得による支出266,339千円及び差入保証金の差入による支出19,686千円などによる資金の減少が、投資有価証券の償還による収入81,225千円などによる資金の増加を上回ったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは159,064千円の収入となりました。これは、長期借入れによる収入450,000千円及び株式の発行による収入38,000千円による資金の増加が、長期借入金の返済による支出319,027千円などによる資金の減少を上回ったことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

該当事項はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	936,667	978,012
売掛金	65,889	71,165
原材料及び貯蔵品	23,077	25,803
その他	182,417	117,321
貸倒引当金	△786	△591
流動資産合計	1,207,264	1,191,711
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,341,529	1,588,710
減価償却累計額	△364,109	△374,914
建物(純額)	977,419	1,213,795
その他	387,896	393,115
減価償却累計額	△213,629	△246,763
その他(純額)	174,266	146,351
有形固定資産合計	1,151,686	1,360,147
無形固定資産	3,704	3,652
投資その他の資産		
敷金及び保証金	355,794	372,218
その他	238,998	254,014
投資その他の資産合計	594,792	626,233
固定資産合計	1,750,184	1,990,032
資産合計	2,957,448	3,181,744

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	121,225	130,250
1年内返済予定の長期借入金	565,895	596,323
未払法人税等	41,608	28,068
資産除去債務	4,606	—
その他	473,726	480,485
流動負債合計	1,207,061	1,235,127
固定負債		
長期借入金	1,043,216	1,143,761
資産除去債務	175,838	199,799
その他	56,986	56,551
固定負債合計	1,276,041	1,400,112
負債合計	2,483,102	2,635,239
純資産の部		
株主資本		
資本金	124,200	143,200
資本剰余金	98,200	117,200
利益剰余金	258,151	286,869
株主資本合計	480,551	547,269
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△6,205	△764
評価・換算差額等合計	△6,205	△764
純資産合計	474,345	546,504
負債純資産合計	2,957,448	3,181,744

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	2,923,969
売上原価	992,541
売上総利益	1,931,427
販売費及び一般管理費	1,883,887
営業利益	47,540
営業外収益	
受取利息	3,985
受取手数料	1,136
その他	959
営業外収益合計	6,081
営業外費用	
支払利息	5,643
その他	1,618
営業外費用合計	7,261
経常利益	46,359
税引前四半期純利益	46,359
法人税、住民税及び事業税	17,092
法人税等調整額	549
法人税等合計	17,641
四半期純利益	28,717

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	46,359
減価償却費	80,798
長期前払費用償却額	7,733
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△194
受取利息及び受取配当金	△3,985
支払利息	5,643
売上債権の増減額 (△は増加)	△5,275
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,726
仕入債務の増減額 (△は減少)	9,025
その他の資産の増減額 (△は増加)	△22,076
その他の負債の増減額 (△は減少)	26,791
その他	△513
小計	141,578
利息及び配当金の受取額	3,754
利息の支払額	△5,415
法人税等の支払額	△39,545
営業活動によるキャッシュ・フロー	100,372
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△266,339
有形固定資産の売却による収入	862
投資有価証券の償還による収入	81,225
資産除去債務の履行による支出	△4,641
差入保証金の差入による支出	△19,686
差入保証金の回収による収入	3,262
その他	△15,779
投資活動によるキャッシュ・フロー	△221,094
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入れによる収入	450,000
長期借入金の返済による支出	△319,027
株式の発行による収入	38,000
その他	△9,908
財務活動によるキャッシュ・フロー	159,064
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	38,342
現金及び現金同等物の期首残高	871,115
現金及び現金同等物の四半期末残高	909,457

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当第2四半期累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計
	飲食事業	ブライダル事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,761,632	1,162,336	2,923,969	—	2,923,969
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,761,632	1,162,336	2,923,969	—	2,923,969
セグメント利益	10,766	36,773	47,540	—	47,540

(注) セグメント利益の合計額は四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

当社は、平成29年9月26日開催の取締役会決議において、平成29年10月11日を基準日とし同年10月12日を効力発生日とする普通株式1株につき20株の株式分割を行っております。

1. 株式分割の目的

当社株式の流動性向上を目的として株式分割を行っております。

2. 株式分割の概要

(1). 分割により増加する株式発行数

- | | |
|-------------------|------------|
| ① 株式分割前の発行済株式総数 | 66,900株 |
| ② 今回の分割により増加する株式数 | 1,271,100株 |
| ③ 株式分割後の発行済株式総数 | 1,338,000株 |
| ④ 株式分割後の発行可能株式総数 | 4,640,000株 |

(2). 株式分割の効力発生日

平成29年10月12日

3. 1株当たり情報に及ぼす影響

当該株式分割が当事業年度の期首に行われたと仮定した場合の1株当たり情報は、次のとおりであります。

	当第2四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	21円57銭